

令和7年度 鶴岡市郷土資料館運営委員会 会議録

○日 時 令和8年1月30日（金）13:30～

○会 場 鶴岡市立図書館本館 会議室

○出席委員 阿部博行 渡部幸 斎藤和久 升川繁敏
佐藤淳 河口昭俊 三原容子 小田郁

○職 員 館長：五十嵐恭子 館長補佐：今野章
主事：白幡凧人 社会教育課長：五十嵐依久子

○公開・非公開の別 公開

○傍聴者の人数 0人

1. 委嘱状交付
2. 開会
3. 館長あいさつ
4. 郷土資料館運営委員並びに事務局自己紹介
5. 正副委員長の選出
6. 委員長・副委員長あいさつ
7. 報告・協議
 - (1) 令和6年度及び令和7年度郷土資料館運営報告について
 - (2) その他

◆協議内容

(1) 令和6年度及び令和7年度郷土資料館運営報告について

(展示について)

委 員：企画展の観覧者数はどのような方法でカウントしているのか。

事務局：パンフレットやリーフレットをもらった人が観覧者数としてカウントされる。

(出羽庄内国際村の収蔵庫)

委 員：今後出羽庄内国際村に資料が収蔵されていくとあるが、国際村にある資料を閲覧するためのプロセスについて、どのように考えているのか。

事務局：一定の時間を頂戴して、職員が国際村に直接取りに行き、郷土資料館で閲覧してもらうという方法で考えている。

委 員：出羽庄内国際村の収蔵庫から資料を持ってくるとなると、時間・労力・リスクがかかる。また資料の続きを見たいという人もいると思われる。1ヶ月の中で何日か職員が国際村にいる日を

設けるのが良いのではないか。利用しやすいようにしてもらいたい。

事務局：国際村に収蔵されている資料を閲覧するために資料館に持ってくるというのはまだ検討段階である。国際村の収蔵庫は一般の方は立ち入り禁止が前提だが、閲覧スペースを設けるなど検討したい。

委員：現在国際村にはどのような資料が収蔵されているのか。

事務局：書籍は佐藤誠朗文庫、井川一良文庫などがあり、五十嵐文蔵氏の蔵書は当館の書庫にある。資料としては、行政再保存文書をはじめ、八沢川土地改良区資料、未整理分の清川村斎藤家文書などがある。

(資料の保存)

委員：小堅コミセン以外の施設で保存している資料はどのくらいあるのか。

事務局：菅野代小学校に教室1部屋分があるが、それは図書館の本であり、古文書はない。

委員：図書館の建設計画がストップした状態なので、現実的に資料をどのように保管するのが最善か考えなければいけないと思う。

(館としての情報発信)

委員：鶴岡市内には市の広報が配布されるため、鶴岡市の情報が行き届いているが、近隣市町村になると情報が入ってこない。企画展などの情報発信をもっとしてほしい。

事務局：情報発信に関しては、郷土資料館では弱い部分なので、今後力を入れていきたい。

委員：令和7年3月に開催された庄内自然史博物展が大盛況だったということだが、それがきっかけで初めて図書館の2階に上がったという人が多いと思う。またコロナ禍の時に新聞閲覧で初めて2階に行ったという人もいたのではないかと。とにかく知ってもらうことが大事だと思う。安価で効果的に宣伝してもらいたい。

委員：致道博物館と共同でワップ騒動の展示を行ったことはとても良いことだった。同じテーマで別々の資料が展示されていたため、致道博物館と郷土資料館両方に行ってみようという人もいたのではないかと。他館の企画とリンクした展示や、コラボなどをしていくのが良いと思われる。

委員：北前船が日本遺産に登録され、去年見直しがされた時に、郷土資料館所蔵の北前船関係資料も追加で登録された。郷土資料館には「宝物」が多く収蔵されているので、それを様々な形で露出していくことで利用者が増加し、資料が活かされることにつながると思う。他の企画とリンクやコラボなどを今後期待したい。

委員：庄内地域全体に郷土資料館を周知する機会をもっとあってほしい。所蔵資料を整理し、公開して展示までする施設は近隣地域ではあまりない。鶴岡市の施設ではあるが、庄内地域全体の施設だと思ってもらいたい。

(図書館に対して)

委員：縦割り行政の弊害により、庁内の課単独では優秀な職員がそれぞれ努力しているが、市民に広まっていない現状がある。将来新しい図書館ができた時には単なる本の貸し借りや人寄せの場所になるのではなく、意見交換もできるような文化センター的な役割を担える場所になってほしい。鶴岡は食文化といった世界的に評価されている街なので、それらを管理・保存・アドバイスができ、将来の観光産業の中心地となるようにしていくのが良いと思う。

委員：子どもたちに地元愛や誇りを醸成させるためには、やはり縦割り行政ではなく、庁内で連携して企画・イベントをすることが重要だと思う。

事務局：現在、子供向けの事業は多くなっている状況である。事業やイベントの情報が溢れている中で、どのように周知すべきか課題となっている。また、庁内での情報共有は、ホームページや電子掲示板等に掲載している。加えて、新採職員研修の際に地域それぞれの特色を学ぶ講義や施設見学等を行っている。

委員：12月24日に荘銀タクトで行われた宇宙飛行士と交信するイベントは、平日の夜だったが子どもも含め多くの方が来ていた。また若い世代の親に向けてチラシだけでなく、SNSも活用し庄内全域に情報発信をしていた。

事務局：図書館で行うイベントは例年夏休みから秋にかけて多いが、一定数は来てくれる。リピーターも大事だが、図書館に初めて来館する方も大事にしていきたい。

委員：図書館で行うイベントを、館内で完結するのではなく、多方面に関心を引き継いでいくようなやり方をしていくのが良いのではないかな。

事務局：図書館リレー企画という、庁内の各課と連携したイベントをこれまで3回実施した。昨年度末に食文化創造都市推進課と連携し雛菓子を作るイベント、6月に環境政策課と連携しごみに関連してリサイクルのイベント、11月が税の月間ということもあり、課税課・納税課と連携し税金について学ぶイベントを開催した。市役所と図書館をどう連携させていくかは今後の課題となる。

委員：来館者数をいかに伸ばすかに固執し、イベントばかり開催する必要はないと思う。数字だけにとらわれず質を重視したイベント開催や運営をしてほしい。

(郷土資料館の在り方について)

委員：他市町村の資料館と比較しても、郷土資料館は従来のやり方で続けていくのが良いと思う。郷土資料館の良いところは職員の対応が親切であるところである。例えば、史料の閲覧に来た研究者に講演会を依頼するなど、新たなネットワークを構築することもあったようだ。

委員：郷土資料館には江戸時代からの資料が数多く所蔵されており、他課で開催しているイベントに関連する資料を活用することによって、他地域との差別化を図れると思う。

委員：山形県立博物館と連携した「庄内自然史博物展」は展示場所を提供したということだが、そのようなケースを増やしても良いのではないかな。ある程度は郷土資料館が主体的に企画展を行い、それ以外の時期は展示場所を提供するというのが良いのではないかな。

事務局：来年度開催予定の「茨木のり子展」は展示場所を提供するという方向で進めている。